

# 当別文芸の会だよりNO.94

H30・5/31 (連絡先・河地良一 TEL090-5076-2550)

## 5月の読書会は若竹千佐子の作品でした

風薫る五月の季節となりましたが、5月19日(土)今年度初めての読書会は、まだ肌寒い曇り空の中、会員10名のみなさんが参加されました。

今回は、去年の芥川賞受賞作品で、若竹千佐子の「おらおらでひとりいぐも」(河出書房新社)の感想交流でしたので、幼少の頃、山形で暮らした経験から、東北弁にも慣れ親しんでおられた松本弘さんに司会進行をお願いしました。

著者の若竹千佐子は、昭和29年(1954)岩手県遠野市生まれの主婦で、55歳から小説講座に通いはじめ、平成29年(2017)第54回文藝賞を史上最年長の63歳で受賞しています。

この作品は、自分の生まれ故郷、疎遠な息子と娘、そして亡き夫のことなど、自分のこれまでの人生を、東北弁丸出しで縦横無尽に語っています。

辿り着いた人生の今、圧倒的な自由と相反する孤独などに立ち向かっていく人生は、私たちにとっても共感するものが数多くあるようです。

読后感想では、これといった教訓的なものはないが、人それぞれ日常の中で起こることに、どう対処して生きていくかなど、話題の尽きない内容でした。

また、年齢や男女によっても、思いや考えが色々あるんだなあということも分かりました。それと、日本各地域で今でも使われている方言の特徴など、興味の尽きない話題などもたくさん話されました。東北弁を通して、東北の気候風土や文化に親しみを感じるひとときでした。

\*5月から高橋侑己さん(園生在住・公務員・27歳)が入会されました。

平均年齢が少し若がるのに貢献してくれそうです。みなさん、よろしく。

## 6月の読書会案内

次回は、6月16日(土)13:30 白樺コミセンです。

お届けする指定本は、鴻上尚史(こうかみ しょうじ)著「不死身の特攻兵」一軍神はなぜ上官に反抗したのか(講談社現代新書)で、主人公は当別村・茂平沢出身の特攻隊員・佐々木友次さん(92歳)の生涯についての内容です。

当別文芸(第8号・7月中旬発刊)にも、大畑裕貴さん、竹原一孝さんが、当別町の隠れた秘話として寄稿してくれています。お楽しみに。